

「聴診器1本さえあれば」

被災した滝田院長、診療再開

東日本大震災の大津波で被災した大船渡市末崎町字細浦の滝田医院の滝田有院長(50)は、今月4日から避難所になっている末崎ふるさとセンター2階に仮設診療所を開設した。自身が過労などによるクモ膜下出血から再起を果たしたばかりの3年後に襲った大津波。津波に呑み込まれながらも脱出し、不撓不屈の精神で診療再開にこぎ着けた。



末崎ふるさとセンターの仮設診療所で診療を再開した滝田医師

末崎ふるさとセンターで

JR細浦駅前にある滝田医院は、3月11日、2階天井まで津波が押し寄せた。外観は保っているが内部の医療機器は使用不能となり、隣接する自宅も壊滅的な被害を受けた。滝田院長は「ちょうど診療中で、地震発生後、患者はすぐに帰り、職員5人も避難したが、滝田院長と家族は避難する前に津波に襲われた。医院の2階に逃げ、全身津波に呑み込まれた。」

「もうだめだと思った。水に浸かっていた時間が長く感じられた。幸い波が引き始めた時に脱出し高台の寺

院に避難した。海水を飲み重篤となった家族は今快方したが、被災の翌日仙台の東北大集中治療室に運ばれた。車も流された。滝田院長は仙台からバスで盛岡に向かい、親戚の車に乗せられて被災から11日目に破壊された医院の前に立った。

申請初日

義援金など

大船渡市による災害義援金・被災者支援金などの受け付けが27日

「私のことを待っていてくれる患者さんがいることが分かり、診療できる場所がないかと思った」。各方面の厚意によりふるさとセンターを使用することができ仮設診療所を開設し診療を再開した。診療日は、月、火、木、金曜日の週4日止

午から午後3時ごろまで。循環器、呼吸器、消化器を中心に内科全領域が専門。最初は盛岡のホテルに寝泊まりし、大船渡間を毎日往復している乗の御会社の車に同乗して通った。現在は仙台から車で通いながら診療を続けている。

申請初日

義援金など

大船渡市による災害義援金・被災者支援金などの受け付けが27日

亡き祖父と父も医者で3代目。末崎小、末崎中、盛岡一高、東北大医学部を卒業後、仙台などで勤務医を経て平成15年に細浦で開業した。末崎町内では唯一の開業医。しかし5年後に自身がクモ膜下出血で倒れた。祖父がクモ膜下出血で倒れた家族歴があり、過労も加わった。一時は再開も危ぶまれた。5カ月後に復帰を果たしたが、今度は津波という試練が襲った。

中から電子カルテのハードディスクを探し出し、専門業者に依頼して修復。現在は電子カルテで対応している。紙カルテも回収した。さらに国産のステレオタイプで気に入っていた聴診器を職員が見つけて持ってきてくれた。聴診器1本さえあれば」と診療再開を目指す心に火がついた。

被災後に不眠を訴える患者も増えた。末崎地区で医療支援を行う自治医科大の医療チームの支援も当初受け

申請初日

義援金など

大船渡市による災害義援金・被災者支援金などの受け付けが27日

有離脱物横領の疑いで、中国人の男2人を逮捕した。逮捕されたのは、福島県本宮市糠沢字岩崎188番の無職・古宮